

経営なら、とうにパンクしておるんではないかということで、町長が前向きな姿勢で、1町5村には温泉が幾つかあります。そういうところへ福祉バスでお年寄りを連れていくとか、何とかいい方法でやっていただかないと、これでは年間に何百万という赤字になります。こういうことを一日も早くやつてもらわないと困りますので、お願いいたします。

答 宗宮孝生町長

お尋ねの入浴施設でございますが、入浴日は建設当初より月・水・金の週3日で、入浴時間は65歳以上の高齢者が利用する午後1時から4時までと、一般の方が利用される午後6時から9時までとなっております。昼間の利用は1日五、六十人と聞いております。夜の利用は15人から25人程度と聞いております。夜間の利用者は減少したものの、昼間の利用につきましては大きな差はなく、高齢者の憩いの場として、また健康増進の場として利用されている現状でございます。しかしながら、議員御指摘のとおり、施設の維持管理を考えますと、浴場管理賃金、あるいは光熱水費、保守管理費等施設に係る費用は多額になってきております。経営上大変厳しい状況となっております。今後、21年経過したこの施設

の老朽化を考えますと、維持管理に係る経費もますます増大し、運営につきましても懸念されるところでございます。1町5村が合併いたしましたので、町内には春日地区でモリモリ村の薬草の湯、あるいは久瀬地区の白龍の湯といった類似施設がございます。現在、これらの施設利用を含めた福祉バスの運行を検討いたしております。よろしくお願いしたいと思います。

また、福祉バスは、高齢者の福祉サービスタとして、旧揖斐川町の4地区を月1回づつ、入浴バス、パターゴルフ場への送迎のための運行をいたしておりますが、利用客は、平均しますと5〜6人と少なく、ほとんどが固定客となっている現状です。こうした現状を考慮し、利用客の実態を把握しながら、老人福祉センターのよりよい利用法を考えて参りたいと思っております。

問 町による携帯電話を利用した防災メールサービスの推進について

町による携帯電話を使った防災メールサービスの推進ですけれども、皆さんもいろいろコンピュータを使ってみるとわかりますけれども、今非常に防災について言われております。この前の新潟地震に對しましても、電話は通じない、けれ

どもメールは通じたというような情報が出ております。揖斐川町も範囲が広くなりました。奥の方になりまして、光ファイバーを引つ張つたりいろんなことをやりましても、もしも線が切れた場合は何ともしようがありません。やはりそのときはメールが重要になってまいります。揖斐川町も前向きな姿勢で、現在IT化が進む中、何としても携帯電話を利用した防災メールサービスをやっていたらいいと思ひまして一般質問をさせていただきました。よろしくお願ひします。

答 宗宮孝生町長

携帯電話を利用した防災メールサービスについてでございますが、今年度より、現在、調査設計を開始いたしました揖斐川町放送通信ネットワーク整備事業で、合併後の全町域での一斉音声告知システムを導入し、各戸への災害情報等を告知できるよう検討を行っております。携帯電話へのメール発信システムは、単独システムとしてもパッケージ化されておりませんが、現在、残念ながら町内全域には携帯電話がつかない不通地域があるため、当該ネットワーク事業での新規音声告知システムとの連携、一元化を含め、どのような仕組みづくりがネットワーク構築の中で、揖斐川町にふさわしく、さらに

災害時等の緊急を要するときに確実に確かな情報の発信ができないかを検討しているところでございます。尚、衛星携帯電話は各振興事務所に設置をいたしました。そういった面で災害・防災についてはフォローをしてまいりたいと考えております。

伊藤 政治 議員

問 農業行政について

昨年度から、国の米改革では経営体として4ヘクタールの担い手農業者、20ヘクタールによる認定農家、また40アール以上を持つ集落型法人、営農組織、あるいは受託営農組織等々による農業を進め、現在の170万戸あると言われる農業者を8万戸程度に減らして、大規模農業や法人組織に米の生産を集中させ、米作の改革を推し進めようとしております。そうしますと、兼業農家並びに高齢者、小規模農家は事実上農家とは認めないということであります。我が揖斐川町について考えるときに、平地と山間地の水田及び農地等には多様性があり、大規模化は極めて困難な状況にあると私は思っております。この米改革には、当新町も地形には極めて厳しい政策だと言っても過言ではないと思ひます。昨年からの米改革が実施されてお